

第2回 白鳥温泉に関するサウンディング型市場調査の結果について

1 サウンディング調査実施の目的

市温浴施設である白鳥温泉は令和5年3月から閉館中であるが、再開や今後の活用方法について、民間事業者への売却や貸付などを中心に様々な角度から検討している中で、民間事業者等との「対話」を通じて、自由かつ実現可能なアイデアを広く聞く「サウンディング調査」を実施した。

結果としては、「施設の規模や老朽化によりランニングコストが掛かり過ぎるなどの理由から、現施設を温浴施設として再開するのは、ビジネスの観点から現実的ではない。」との意見を受けた。

そこで、今回市が建物を撤去することを条件として、改めて2回目のサウンディング調査を実施した。

2 サウンディング調査の実施スケジュール

実施要領の公表	令和5年9月15日（金）
参加申込期限	令和5年10月13日（金）
実施期間	令和5年10月27日（金）

3 サウンディング調査の参加者

参加事業者数 1者

4 サウンディング調査結果の概要について

調査結果の概要については、次のとおりである。ただし、内容は要約したものである。

調査項目	概 要
1 温浴施設再開の可能性について	<ul style="list-style-type: none">・温浴施設としては投資を回収するのは商圏的にも困難と思われる。・客単価を上げ、高級な温浴施設という設定も難しい。・温浴施設と、他の施設との複合でないと可能性は低い。・高齢者向けの福祉施設に、温浴施設を設ける方がまだ可能性はある。・敷地の一部が土砂災害警戒区域であるのは阻害要因である。
2 温浴施設以外の新たな施設設置の可能性について	<ul style="list-style-type: none">・交通の便が悪く、日帰りの施設としての営業は難しい。・グランピング、キャンプ場などの施設であれば投資額も少なく、可能性はある。・貸付よりも譲渡の方が投資を呼び込みやすい。・近郊施設を営業しているので、今後の相乗的な営業の可能性はある。